

---

# 透析患者に発生した malignant astrocytomaの1例

平鹿総合病院泌尿器科

小友 良、蝦名謙一

## Malignant Astrocytoma in a Hemodialysis Patient

Ryo Otomo, Kenichi Ebina

Department of Urology

Hiraka General Hospital, Yokote

症例は70歳、女性、透析歴8ヶ月。嚔下困難と体動困難を主訴に入院した。頭部画像診断で直径2 cm大の脳腫瘍を確認し、開放性生検を行ったところmalignant astrocytomaであった。60Gyの体外放射線療法を試みたが、54Gy終了後、呼吸不全を来たして死亡した。

悪性gliomaの一つであるmalignant astrocytomaは非常に浸潤性の強い腫瘍で種々の治療に抵抗性であり、極めて予後不良な疾患である。さらに血液透析患者では手術による出血傾向や脳浮腫、抗腫瘍剤の投与量規制などから積極的な治療ができないのが現状である。

本疾患に対する手術療法（図1）、化学療法（図2）、放射線療法（図3）そのおのこの目的と実際、さらにそれらの限界（図4）について考察した。

図 1

### 手術療法の役割

- ・ 組織診断の確定
- ・ mass effectの軽減
- ・ 腫瘍量の軽減による生存率の向上

\* 神経機能保存のため、常に絶対非治癒切除になる

図 2

### 化学療法施行時の問題点

- ・ 投与量（正常人の1/2～1/4）
- ・ 有用性（adjuvant療法の意味合い）
- ・ pharmacokinetics（血液脳関門の存在）

図 3

### 放射線治療

- ・ 延命効果
- ・ 化学療法剤と併用で効果増強作用
- ・ 照射効果の主体は腫瘍血管の障害

図 4

### 透析患者における悪性 glioma

- ・ 根治は非常に困難と認識
- ・ 脳浮腫の予防に努める
  - ・ 最小限の体重増加
  - ・ steroid投与